2007年度 役員紹介 07

若手会員による活力ある会務の実現を！
—2007年度会長に就任して—

東京弁護士会会長　下河邉 和彦

陽春の候，会員の皆さまにはご健勝にてご活躍のことと存じます。

会長就任にあたりまして，ご挨拶申し上げます。

昨年10月に，日本司法支援センター（愛称，法テラス）が業務を開始し，本年12月には，法科大学院の初めての卒業生である新60期が新たに法曹として誕生します。司法改革は実行のときを迎えて，「市民に身近で，頼りがいのある司法」を実現するための制度的，人的な基盤整備がいよいよ現実のものとなろうとしています。そして，裁判員制度の実施まであと2年となり，今次の司法改革により新たに創り出された諸制度が，わが国の社会において現実に運用され，その成果がいわば験される時期を目前にしています。

これらの制度によって，司法が，市民にとって真に身近で，わかりやすく，利用しやすく，頼もしいものとなるのかに，わが国の21世紀の社会が「法化社会」となるのかとともに，私たち自身の弁護士という職業の未来もかかっています。

その意味で，新たな制度を運営していく大きな役割を担っている私たち弁護士，なかでも全国でもっとも多くの5000名を超える会員を有する東京弁護士会の責務はまことに大きいものがあります。

東京弁護士会がこの重大な責務を誤りなく果たしていくためには，「基本的人権の擁護と社会正義の実現」という弁護士の使命とかけがえのない弁護士自治の堅持につねに思いを致し，会員の皆さまの声に広く耳を傾け，会員の豊富な経験と叡智をくみあげるとともに，若手会員が積極的に発言し，活躍することができる機会と場を提供して，東京弁護士会に「活力ある会務」を実現していくことが強く求められます。

本年は，「2007年問題」と言われているとおり，弁護士人口急増時代の幕開けとなる年です。このままでいけば，2010年頃までには弁護士の数は3万人台となります。「大きな司法」を現実のものとし，「市民のための司法改革」の実行に積極的に取り組んでいくためには，一定の弁護士人口の増加は必要ですが，弁護士人口の急増という厳しい現実を目前にして，新たな業務領域の開拓，拡充への取り組みが喫緊の課題となっています。

私は，このような基本的な認識のもとに，前年度の吉岡執行部の成果を受け継ぎ，本年度次のような諸課題の実行に取り組みます。

1　この4月に発足の「弁護士紹介センター」の立ちあげと充実
2　「弁護士研修センター」の常設事務局体制の実現
3　「新進会員活動委員会」の活動を軸とする，若手会員の意見の積極的な会務への反映
4　「OA刷新プラン」を軸とする東弁（事務局）の業務改革の推進
5　会の財務，組織改革，会員の業務開拓等についての中期的な基本計画策定に向けての取り組み
6　多摩支部新会館（立川）の具体化と公設事務所開設に向けての取り組み
7　「裁判員制度」実施に向けての刑事対応体制確立の取り組み
8　憲法問題と人権活動への一層の取り組み

私は，会員の皆さまのご理解をいただきながら，誠心誠意，全力を尽くして，東京弁護士会会長としての務めを果たしてまいる所存です。

1年間よろしくご鞭撻下さいますよう，お願い申し上げます。

2007年度の役員に
インタビューをおこないました。
1年間よろしくお願いします。

【質問】
① 一番関心のあることは何ですか？
② 一番大切にしていることは何ですか？
③ 長所・短所，趣味は何ですか？
④ 弁護士になって感動したこと・つらかったことは？

疾風に勁草を知る

会長 下河邉 和彦

①憲法9条と弁護士の近未来。
②バランスの取れた判断をするための心身の健康。
③物事に対して，なんにせよカタイこと。
「ご趣味は？」と尋ねられて，「無趣味が趣味です」と言わざるを得ないのが正直つらいところです。
④弁護士として心が洗われる思いがするのは，未成年で2件の強盗殺人を犯し，無期懲役で，すでに23年あまり服役している国選の被告人から折々届く便り。弁護士として多分これまでで一番ホッとしたのは，管財人として2回経験した「会社更生手続きを終結する」と裁判官から告げられたとき。

社会で活躍する弁護士を支援する弁護士会

副会長 林 史雄

①弁護士大量増員が現実となる今年度の新入会員の受け入れ体制の対応と，変革を余儀なくされている弁護士会のハード・ソフトの改革計画
②人の和
③長所は，協調性があり気が長い点（年とともにそうでもなくなっています）と，先のことを思い悩まない性格，短所は，その裏腹に優柔不断（そうでもないかなと思っている）であること。まあ，自分で言うのですからいずれも願望かも知れません。趣味は，テニス（月1回），山登り（年1回が現状）。旅行も好きですが，殆どは会務か業務と掛け持ちです。年々，時間の流れが速くなり，趣味の時間がなくなりつつあります。
④ありきたりですが，依頼者と共感をもてる仕事ができることです。自由に考え，信念に従って行動できることはとても幸せです。辛いことは，できるだけ忘れるようにしています。

一所懸命

副会長 須田 徹

①弁護士の活動領域を拡大すること。特に自治体に関心がある。地方分権の推進を背景に自治体の弁護士ニーズが高まりつつあるのを感じる。自治体が扱う領域は広大であり，自治体法務は魅力のある分野だと思う。
②一所懸命。鎌倉幕府の御家人が自分の知行を守るために命を懸けたのが語源だと歴史で習ったのを記憶している。一所懸命は私の好きな言葉である。副会長の職務もこの精神で頑張りたいと思っている。
③手抜きしないことが長所であり，手抜きできないことが短所であるように思う。そのため1つのことをやり遂げるのに時間がかかりすぎ，結果的にやらなければならない他のことに時間が割けないことがしばしばある。反省することしきりである。
趣味は，以前はコンピューターであったが，最近は海釣りである。
④格別のものはないが，事件やその他の仕事を通じ，自分の知らない世界を垣間見ることができるのは楽しいし，良い結果が出て依頼者から感謝されたときはとてもうれしい。

更なる市民の権利の擁護を

副会長　小林 七郎

①弁護士と弁護士会の将来像。これから本格的な弁護士の大量増員時代が始まります。弁護士が今までのように弁護士会に結集していくためにどうすればよいのか。

②自分の時間を持ち，自分を振り返ってみる余裕を持つこと。とかく忙しさに追われ自分を見失いがちになることは避けたい。ストレス解消にも気を使っている。

③長所は真面目なこと。短所は不器用で短気なこと。趣味はゴルフ，釣り（淡水），絵画鑑賞。

④感動と言うよりも嬉しいことは，解決の糸口の見つからないような事件でも根気強く事情を聴いたり考えたりしているうちに光明が見え，望ましい解決が得られたとき。つらいことは，自分の依頼者と考えが食い違い，信頼されないとき。こういうことはよくあることだが，依頼者との信頼関係を築くことの重要性を痛感させられる。

一市民の視線を忘れずに

副会長　伊井 和彦

①一般市民に，私たち弁護士や弁護士会が，どのように見られ理解されているか。世論に迎合する必要はありませんが，理解してもらう努力はもっと必要だと思います。

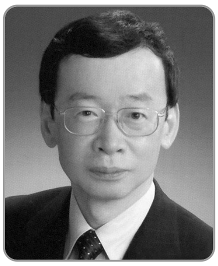
②何事も常識・当然と思わず，自分の価値観で自由に考え，同時に自分とは違う価値観を尊重すること。

③長所：何とかなる，と楽観主義なところでしょうか。
短所：自分の能力以上に背負い込み過ぎること（？）
趣味：古い映画のDVD収集。同好の方，連絡ください。

④自分の損得抜きで，社会や弁護士会のために献身的に活動している弁護士が多いことには，いつも感動しています。
つらいことは…忘れるようにしています。

明日考えよう

副会長　圓山　司



①弁護士大増員に対して弁護士会として何をすべきかです。担当する弁護士研修センターの実効化の手始めとして，常設事務局体制を実現したいと思っています。

②健全な精神と健康です。

③長所：真面目，和を乱さないこと
短所：人のことを気にしすぎて積極的に行動できない点
趣味：強いてあげれば映画鑑賞くらいですが，最近は激減しています（冒頭の言葉はスカーレットの独白の引用であり，怠慢の言い訳ではありませんので，念のため）。

④暗く憔悴しきった依頼者が，事件解決とともに別人のように明るく生き生きとした表情になるのを見ることは，弁護士として感動的です。つらいのは，自分では頑張ったつもり（経過・結果共に）でも依頼者に理解されないときです。弁護士としての至らなさを痛感させられます。

善意と勇気

副会長　鈴木 善和

①法律扶助協会が行なってきた自主事業，これを同協会が解散した４月１日以降も量と質を低下させることなく，更に拡充していくこと，これが今，一番の関心事です。

②善意と勇気です。ただ，日々，深く反省させられています。

③和を好むこと，人に意地悪しないことが長所かも知れません。短所は，長所の反作用でありもう一方の側面ということになるかも知れません。自分が譲ればいいという気持ちになります。趣味は，ゴルフと一応書いていますが，下手です。

④刑事事件で検察官請求の２号書面が却下になったこと，無罪をとったこと，民事事件ですが，高裁で逆転勝訴したことなどは，やはり爽快感がありました。辛かったのは，上告中に被告人が亡くなったり，受刑中に亡くなったりしたことです。自分の力不足を痛感させられました。

個人の尊厳のために

監事 **大森 秀昭**

①司法改革の実現によって，弁護士や弁護士会，そして司法がどのように発展していけるのかについて。

②家族の健康と絆。そして，人と人との信頼関係です。

③長所は，やるべき時には気力と体力が続く限り，徹底して調査し，分析しようとすること。短所は，人の顔をなかなか覚えられないこと。声をかけられても相手が誰であるか分からないことが少なくなくあります。3回程面談してようやく名前と顔が一致するようになります。ですから，ついつい下を向いて歩いています。趣味は，ゴルフと音楽鑑賞，学生時代はファゴットを演奏していました。

④困難な事件で，事実の調査を積み重ねて立証に成功し，勝訴判決や勝利的和解を勝ち取って依頼者に満足してもらえたときは，自分が弁護士として役に立てたことを実感することができます。しかし，法律上の評価や解釈で敗訴した時には，無力感に苛まされます。

私は暢気者

監事 **菅 芳郎**

①司法改革の現状と弁護士会の将来。
是々非々の立場から早急に検証し，制度設計の見直しも含めた思い切った対策が必要なのではないかと思います。

②家族，友人，仲間との信頼関係。
少しメタボリックですが，酒を飲みながら一層の信頼関係を築ければ…。

③長所と短所については，自分では正確に判断できませんが，表裏一体をなしているというか，暢気者である（鈍感である）ためスローワークにつながりやすいことでしょうか。
趣味は読書，囲碁（若手の会員の方々に是非東弁棋友会に参加していただきたいと思います…以上，棋友会PR），剣道（もし稽古が再開できれば〔すれば〕）。

④感動したことは，いかにも古武士のような風格の地道で立派な活動をされている多くの尊敬できる先輩にお会いできたことです。
辛かったことは，やはり依頼人の期待に沿えず敗訴して無力感を味わったことでしょうか。

■2007年度東弁常議員（80人／50音順）

相澤 和義	磯部 幸一	岡田 隆志	木下 秀三	佐瀬 正俊	関本 隆史	津田 二郎	藤田 正人	無津呂幸憲
上石 奈緒	伊藤 茂孝	小川 義龍	清井 礼司	佐藤 和利	芹澤 眞澄	中井 陽子	渕上 玲子	本島佳代子
浅賀 大史	今給黎泰弘	小口 克巳	久野 健	佐藤 嘉寅	髙田 正雄	長尾 敏成	細谷 裕美	山田 啓
飯田美弥子	岩佐 和雄	織田 英生	古笛 恵子	鹿田 順平	髙畠 敏秀	中村 昌典	堀之内英二	山本 英司
池田 里江	上原 理	小野 孝明	小峯 健介	篠塚 力	鷹見 雅和	野澤 裕昭	本間 佳子	山本 孝
井﨑 淳二	大井倫太郎	鍵尾 憲	坂井 崇徳	篠原 煜夫	竹内 栄	深沢 岳久	松田 雄紀	吉田 哲
石井 修平	大川原紀之	加園 多大	佐久間篤夫	柴田 征範	田中寿一郎	福井 大介	水上 博喜	和田 聖仁
石川 雅巳	大畑 敦子	栢割 秀和	佐々木公明	鈴木 利治	田中 博尊	福井 達也	蓑毛 良和	渡邉 正昭
石部 享士	大星 賞	寒竹 里江	佐々木 亮	関端 広輝	田中 宏幸	福崎 真也	御山 義明	

■2007年度日弁連代議員（105人／50音順）

相澤 和義	岩佐 和雄	鍵尾 憲	佐久間篤夫	清水亜紀子	武内 更一	濱田 広道	細谷 裕美	山﨑 健
上石 奈緒	上原 理	加園 多大	佐々木公明	下谷 收	竹内 栄	林 史雄	堀之内英二	山田 啓
浅賀 大史	遠藤 憲一	栢割 秀和	佐々木 亮	進士 肇	田中寿一郎	日向 隆	松田 雄紀	山本 英司
飯田美弥子	大井倫太郎	川村 理	佐瀬 正俊	須﨑 憲顕	田中 博尊	深沢 岳久	松原 祥文	山本 孝
池田 里江	大川原紀之	寒竹 里江	佐藤 和利	鈴木 利治	田中 宏幸	福井 大介	水上 博喜	横山 渡
井﨑 淳二	大畑 敦子	木下 秀三	佐藤 光子	須田 徹	津田 二郎	福井 達也	蓑毛 良和	吉田 哲
石井 修平	大星 賞	清見 勝利	佐藤 嘉寅	関端 広輝	中井 陽子	福崎 真也	御山 義明	吉田 幸宗
石川 雅巳	岡田 隆志	久野 健	鹿田 順平	関本 隆史	長尾 敏成	福島 昭宏	無津呂幸憲	和田 聖仁
石部 享士	小川 義龍	小林 七郎	篠塚 力	芹澤 眞澄	中村 雅人	藤田 正人	村上 義弘	渡邉 正昭
磯部 幸一	小口 克巳	古笛 恵子	篠原 煜夫	髙田 正雄	中村 昌典	渕上 玲子	森田 太三	
伊藤 茂孝	織田 英生	小峯 健介	篠原 靖征	髙畠 敏秀	野澤 裕昭	古野浩一郎	谷津 朋美	
今給黎泰弘	小野 孝明	坂井 崇徳	柴田 征範	鷹見 雅和	長谷川直彦	保木野秀明	矢吹 公敏	